

平成30年度（2018年度）採択プログラム 中間評価調書
 卓越大学院プログラム プログラムの基本情報 [公表。ただし、項目12、13については非公表]

機関名		長崎大学		整理番号	1814
1.	プログラム名称	世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム			
	英語名称	Global Health Elite Programme for Building a Healthier World			
2.	全体責任者 (学長)	ふりがな 氏名(職名)	こうの しげる 河野 茂 (長崎大学長)	※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学（連合大学院によるもの場合は基幹大学）の学長名に下線を引いてください。	
3.	プログラム責任者	ふりがな 氏名(職名)	きた きよし 北 潔 (長崎大学大学院 熱帯医学・グローバルヘルス研究科長)		
4.	プログラム コーディネーター	ふりがな 氏名(職名)	ありよし こうや 有吉 紅也 (長崎大学 熱帯医学研究所 教授)		
5.	設定する領域	最も重視する領域 【必須】	②社会において多様な価値・システムを創造するような、文理融合領域、学際領域、新領域		
		関連する領域(1) 【任意】	なし		
		関連する領域(2) 【任意】	なし		
		関連する領域(3) 【任意】	なし		
6.	主要区分	最も関連の深い区分 (大区分)	I		
		最も関連の深い区分 (中区分)	58	社会医学、看護学およびその関連分野	
		最も関連の深い区分 (小区分)	58020	衛生学および公衆衛生学分野関連：実験系を含む	
		次に関連の深い区分 (大区分)【任意】	I		
		次に関連の深い区分 (中区分)【任意】	54	生体情報内科学およびその関連分野	
		次に関連の深い区分 (小区分)【任意】	54030	感染症内科学関連	
7.	授与する博士学 位分野・名称	博士(グローバルヘルス), 博士(医学), 博士(歯学), 博士(薬学), 博士(学術), 博士(工学), 博士(環境科学), 博士(水産学), 博士(海洋科学), 博士(経営学)			
8.	学生の所属する 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	【以下、すべての研究科・専攻は長崎大学】 多文化社会学研究科多文化社会学専攻, 経済学研究科経済経営政策専攻, 経済学研究科経営意思決定専攻, 工学研究科総合工学専攻, 工学研究科生産システム工学専攻, 工学研究科グリーンシステム創成科学専攻, 水産・環境科学総合研究科水産学専攻, 水産・環境科学総合研究科環境科学専攻, 水産・環境科学総合研究科環境海洋資源学専攻, 水産・環境科学総合研究科海洋フィールド生命科学専攻, 医歯薬学総合研究科保健学専攻, 医歯薬学総合研究科災害・被ばく医療科学共同専攻, 医歯薬学総合研究科医療科学専攻, 医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学系専攻, 医歯薬学総合研究科放射線医療科学専攻, 医歯薬学総合研究科先進予防医学共同専攻, 医歯薬学総合研究科生命薬科学専攻, 熱帯医学・グローバルヘルス研究科グローバルヘルス専攻, 熱帯医学・グローバルヘルス研究科長崎大学ーロンドン大学衛生・熱帯医学大学院国際連携グローバルヘルス専攻			
9.	連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入			10.	本プログラムによる学位授与数(年度当たり)の目標 ※ 補助期間最終年度の数字を記入してください。
連合大学院		共同教育課程		8名	
11. 連携先機関名(他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)					
ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院(LSHTM), 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター, 帯広畜産大学原虫病研究センター, 東京大学医学系研究科, 国立国際医療研究センター(NCGM), 国立感染症研究所, 国際協力機構(JICA), シスメックス株式会社					

(【1814】機関名：長崎大学 プログラム名称：世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム)

[公表]

14. プログラム担当者一覧								
番号	氏名	カナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	フォート(割合)
※「年齢」は公表しません。								
1	(プログラム責任者) 北 潔	キタ キヨシ		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・研究科長	薬学博士	寄生虫学, 生化学	プログラム責任者, 事業統括マネジメント, 学位プログラム改革委員, 卓越大学院運営委員, グローバルヘルスプログラム運営委員, 講義(病原微生物学III) 研究指導(寄生虫学・生化学)	3
2	(プログラムコーディネーター) 有吉 紅也	アリヨシ コウヤ		長崎大学・熱帯医学研究所・教授	医学博士	臨床熱帯医学	プログラムコーディネーター, 学位プログラム改革委員, 卓越大学院運営委員, グローバルヘルスプログラム運営委員, 卓越合同学務委員, 講義(熱帯医学基礎, 病原微生物学, 臨床熱帯医学), 研究指導(臨床熱帯医学)	3
3	森口 勇	モリグチ イサム		長崎大学・教学担当理事・教務担当副学長	博士(工学)	ナノテクノロジー・材料/無機物質	卓越大学院運営委員長	1
4	門司 和彦	カドシ カズヒコ		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授	保健学博士	人類生態学・熱帯公衆衛生学	講義(グローバルヘルス・ヘルスプロモーション), 研究指導(人類生態学・熱帯公衆衛生学)	2
5	神谷 保彦	カミヤ ヤスヒコ		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授	博士(医学)	小児保健・緊急援助	講義(グローバルヘルスI, 小児保健, 緊急援助), 研究指導(国際地域保健学, 保健政策・マネジメント関連)	3
6	Sharon Cox	シャロン コックス		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授	PhD	Nutrition and Infection, Maternal and child health	講義(疫学・統計学・栄養), 研究指導(Nutrition and Infection, Maternal and child health)	2
7	Christopher Smith	クリストファー スミス		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授	PhD	Clinical Medicine & Epidemiology	研究指導(Clinical Medicine & Epidemiology)	2
8	相賀 裕嗣	アイカ ヒロツグ		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授	保健学・博士	国際保健政策学	講義(グローバルヘルス・保健システム・食糧安全保障と栄養), 研究指導(保健システム・保健政策)	2
9	青木 恒憲	アオキ ツネリ		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授	公衆衛生学・修士	公衆衛生学	講義(援助論), 研究指導(公衆衛生学)	2
10	由井 克之	ユイ カツキ		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授	医学博士	感染免疫学	講義(免疫学), 研究指導(感染免疫学)	1.5
11	平山 謙二	ヒラヤマ ケンジ		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授	博士(医学)	免疫遺伝学	講義(免疫学, バイオテクノロジー), 研究指導(免疫遺伝学)	1
12	松井 三明	マツイ ミツアキ		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・准教授	博士(医学)	リプロダクティブヘルス・プログラムマネジメント・母子保健学	講義(リプロダクティブヘルス・プログラムマネジメント), 研究指導(リプロダクティブヘルス・母子保健学)	1
13	増田 研	マスタ ケン		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・准教授	博士(社会人類学)	医療人類学	講義(医療人類学), 研究指導(医療人類学)	1.5
14	Chris Ng Fook Sheng	クリス ウン フック シェン		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・准教授	博士(保健学)	生物統計学	講義(疫学, 統計学), 研究指導(生物統計学, 環境疫学)	3
15	Xerxes Seposo Tesoro	サーケス セボソ テソロ		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・助教	PhD Environmental Epidemiology	環境疫学	講義(疫学, 統計学), 研究指導(生物統計学, 環境疫学)	10
16	金子 修	カネコ オサム		長崎大学・熱帯医学研究所・教授	博士(医学)	寄生虫学・マラリア分子生物学・集団遺伝学	講義(病原微生物学II(病原性原虫)), 研究指導(寄生虫学・マラリア分子生物学・集団遺伝学)	1
17	金子 聡	カネコ サトシ		長崎大学・熱帯医学研究所・教授	博士(医学)	疫学・情報学	講義(社会起業論), 研究指導(疫学・情報学)	3
18	濱野 真二郎	ハマノ シンジロウ		長崎大学・熱帯医学研究所・教授	博士(医学)	寄生虫学・免疫学	講義(病原微生物学II), 研究指導(寄生虫学・免疫学)	1
19	森田 公一	モリタ コウイチ		長崎大学・熱帯医学研究所・教授	医学博士	ウイルス学	講義(病原微生物学I), 研究指導(ウイルス学)	1
20	吉田 レイミント	ヨシダ レイミント		長崎大学・熱帯医学研究所・教授	医学博士	感染症学	研究指導(感染症学)	1.5

(【1814】機関名:長崎大学 プログラム名称:世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム)

[公表]

14. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポイント(割合)
21 樋泉 道子	トイズミ ミチコ		長崎大学・熱帯医学研究所・助教	博士(医学)	小児科学・疫学・小児感染症学	研究指導(小児科学・疫学・小児感染症学)	1
22 加藤 健太郎	カトリ ケンタロウ		長崎大学・熱帯医学研究所・助教	博士(薬学)	生化学, 寄生虫学	研究指導(生化学, 寄生虫学)	0.5
23 Lina Madaniyazi	リナ マダニヤズ		長崎大学・熱帯医学研究所・助教	Ph. D.	環境疫学	研究指導(環境疫学)	0.5
24 泉川 公一	イズミカワ コウイチ		長崎大学大学院・医歯薬学総合研究科・教授	博士(医学)	感染制御学・真菌学	研究指導(感染制御学・真菌学)	1
25 川上 純	カワカミ アツシ		長崎大学大学院・医歯薬学総合研究科・教授	医学博士	リウマチ・膠原病内科学	グローバルヘルスプログラム運営委員, 研究指導(リウマチ・膠原病内科学)	0.5
26 西田 教行	ニシダ ケウキ		長崎大学大学院・医歯薬学総合研究科・教授	博士(医学)	ウイルス学	卓越大学院運営委員, 卓越合同学務委員, 研究指導(ウイルス学)	2
27 黒田 裕美	クロダ ヒロミ		長崎大学大学院・医歯薬学総合研究科・教授	看護学博士	臨床看護学	研究指導(臨床看護学)	0.5
28 COMPEL RADOMIR	コンペル ラドミール		長崎大学大学院・多文化社会学研究科・准教授	博士(国際経済法学)	比較政治学	研究指導(比較政治学)	1
29 見原 礼子	ミハラ レイコ		長崎大学大学院・多文化社会学研究科・准教授	博士(社会学)	教育社会学・子ども社会学	研究指導(教育社会学・子ども社会学)	1
30 小松 悟	コマツ サトル		長崎大学大学院・多文化社会学研究科・准教授	博士(学術)	開発経済学・環境経済学	研究指導(開発経済学・環境経済学)	1.5
31 清水 康博	シズミ ヤスヒロ		長崎大学大学院・工学研究科・教授	工学博士	センサ材料科学	研究指導(センサ材料科学)	1
32 島山 智充	シマヤマ トモミツ		長崎大学大学院・工学研究科・教授	博士(農学)	生化学	研究指導(生化学)	0.5
33 板山 朋聡	イタヤマ トモアキ		長崎大学大学院・工学研究科・教授	博士(工学)	水環境工学	研究指導(水環境工学, 開発途上国向けの水処理システムと水圏微生物生態学)	0.5
34 大嶺 聖	オオミネ キヨシ		長崎大学大学院・工学研究科・教授	工学(博士)	地盤環境工学	研究指導(地盤環境工学)	0.5
35 木村 正成	キムラ マサナリ		長崎大学大学院・工学研究科・教授	博士(工学)	有機化学・合成化学	研究指導(合成化学)	2
36 近藤 智恵子	コトベウ チエコ		長崎大学大学院・工学研究科・教授	博士(学術)	分子力学, 熱工学	研究指導(分子シミュレーション, 環境エネルギー工学)	0.5
37 兵頭 健生	ヒョウトウ ケンセイ		長崎大学大学院・工学研究科・准教授	博士(工学)	電気化学	研究指導(電気化学)	0.5
38 海野 英昭	ウノ ヒデアキ		長崎大学大学院・工学研究科・准教授	博士(理学)	生化学, 構造生物学	研究指導(生化学, 構造生物学)	0.5
39 小野寺 玄	オノテラ ゲン		長崎大学大学院・工学研究科・准教授	博士(工学)	有機金属化学	研究指導(有機金属化学)	0.5
40 Bun Chan	バン チェン		長崎大学大学院・工学研究科・助教	PhD	理論化学	研究指導(理論計算化学, 量子計算化学)	0.5
41 上田 太郎	ウエダ タロウ		長崎大学大学院・工学研究科・助教	博士(工学)	ガスセンサ, 機能性セラミックス	研究指導(ガスセンサ, 機能性セラミックス)	0.5
42 仲山 英樹	ナカヤマ ヒデアキ		長崎大学大学院・水産・環境科学総合研究科・教授	バイオサイエンス(博士)	環境生物工学, バイオサイエンス	研究指導(環境生物工学, バイオサイエンス)	0.5
43 中川 啓	ナカガワ ケイ		長崎大学大学院・水産・環境科学総合研究科・教授	博士(工学)	水文学・水工学	研究指導(水文学・水工学)	0.5
44 白川 誠司	シラカワ セイジ		長崎大学大学院・水産・環境科学総合研究科・准教授	博士(理学)	グリーンケミストリー	研究指導(環境化学, 有機合成化学)	0.5
45 濱崎 宏則	ハマザキ ヒロノリ		長崎大学大学院・水産・環境科学総合研究科・准教授	博士(政策科学)	環境政策学, 環境ガバナンス論	研究指導(環境政策学, 環境ガバナンス論(水資源管理))	2
46 平坂 勝也	ヒラサカ カツヤ		長崎大学大学院・水産・環境科学総合研究科・准教授	栄養学(博士)	分子栄養学	研究指導(分子栄養学, 栄養生理学)	1
47 太田 貴大	オタ タカヒロ		長崎大学大学院・水産・環境科学総合研究科・准教授	博士(工学)	生態系サービス論	研究指導(生態系サービス論)	1
48 山本 裕基	ヤマモト ユウキ		長崎大学大学院・水産・環境科学総合研究科・准教授	博士(経済学)	環境経済学・開発経済学	研究指導(環境経済学・開発経済学)	0.5

(【1814】機関名:長崎大学 プログラム名称:世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム)

[公表]

14. プログラム担当者一覧（続き）

氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポート割合
49 重富 陽介	シゲトミ ヨウスケ		長崎大学大学院・水産・環境科学総合研究科・准教授	博士（エネルギー科学）	環境システム学, 産業エコロジー	研究指導（環境システム学, 産業エコロジー学）	0.5
50 成田 真樹子	ナリタ マキコ		長崎大学大学院・経済学研究科・准教授	経済学（博士）	世界経済論, ヨーロッパ経済論, スペイン研究	研究指導（世界経済論, ヨーロッパ経済論, スペイン研究）	0.5
51 植木 優夫	ウエキ ユウヂ		長崎大学・情報データ科学部・教授	環境学（博士）	統計科学, 生物統計学, 遺伝統計学	研究指導（統計科学, 生物統計学, 遺伝統計学）	0.5
52 高橋 将宜	タカハシ マサヨシ		長崎大学・情報データ科学部・准教授	理工学（博士）	統計科学, 計量政治学, 公的経済統計, 欠測データ	研究指導（統計科学, 計量政治学, 公的経済統計, 欠測データ）	0.5
53 一藤 裕	イツフジ ユウ		長崎大学・情報データ科学部・准教授	情報科学（博士）	データマイニング, 観光政策	研究指導（データマイニング, 観光政策）	0.5
54 梅津 佑太	ウメヅ ユウタ		長崎大学・情報データ科学部・准教授	機能数理学（博士）	数理統計, 機械学習, 高次元データ解析	研究指導（数理統計, 機械学習, 高次元データ解析）	0.5
55 Peter Piot	ピーター ピョット		ロンドン大学衛生熱帯医学大学院・学長	医学博士	熱帯医学・ウイルス学	アドバイザー	0.5
56 Anne Mills	アン ミルズ		ロンドン大学衛生熱帯医学大学院・公衆衛生・政策研究科・教授・副学長	PhD	Public Health, Health economics	アドバイザー	0.5
57 Brian Greenwood	ブライアン グリーンウッド		ロンドン大学衛生熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	医学博士	熱帯医学	アドバイザー	0.5
58 Beate Kampmann	ビエテ カンプマン		ロンドン大学衛生熱帯医学大学院・MRCガンビア研究拠点・教授・ワクチン免疫部門長	PhD	Vaccinology, Immunology, Pediatrics	研究指導（Vaccinology, Immunology, Pediatrics）	0.5
59 John Edmunds	ジョン エドモンズ		ロンドン大学衛生熱帯医学大学院・疫学集団健康研究科・教授	PhD	Mathematical Modeling, Epidemiology	卓越合同学務委員, 研究指導（Mathematical Modeling, Epidemiology）	0.5
60 John Morrison Kelly	ジョン モリソン ケリー		ロンドン大学衛生熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Parasitology, Molecular Biology, drug development	研究指導（Parasitology, Molecular Biology, drug development）	0.5
61 Kim Mullholland	キム ムルホルランド		ロンドン大学衛生熱帯医学大学院・疫学集団健康研究科・教授	PhD	Vaccinology, Tropical Child Health	卓越合同学務委員, 研究指導（Vaccinology, Tropical Child Health）	0.5
62 Ian Roberts	イアン ロバーツ		ロンドン大学衛生熱帯医学大学院・疫学集団健康研究科・教授・臨床治験センター長	PhD	Clinical Trial	研究指導（Clinical Trial）	0.5
63 Richard Coker	リチャード コーカー		ロンドン大学衛生熱帯医学大学院・公衆衛生・政策研究科・教授	PhD	Public Health	研究指導（Public Health）	0.5
64 Christopher John Drakeley	クリストファー ジョン ドラッケレイ		ロンドン大学衛生熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Immunology, Malariaology	研究指導（Immunology, Malariaology）	0.5
65 Martin L. HIBBERD	マーチン エル ヒバート		ロンドン大学衛生熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Emerging Infectious Diseases, Genome Research	研究指導（Emerging Infectious Diseases, Genome Research）	0.5
66 Umberto D' Alessandro	ウバルト デアレクサンドロ		ロンドン大学衛生熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授・MRCガンビア研究拠点長	PhD	Malariaology, Epidemiology	研究指導（Malariaology, Epidemiology）	0.5
67 David Mabey	デービッド メイビー		ロンドン大学衛生熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Tropical Infectious Diseases	研究指導（Tropical Infectious Diseases）	0.5
68 Robin Bailey	ロビン ベイリー		ロンドン大学衛生熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科教授・臨床熱帯医学修士専攻長	PhD	Tropical Medicine, Infectious Diseases	研究指導（Tropical Medicine, Infectious Diseases）	0.5
69 高田 礼人	タカタ レイト		北海道大学・人獣共通感染症リサーチセンター・教授	博士（獣医学）	ウイルス学	研究指導（ウイルス学）	0.5
70 河津 信一郎	カワヅ シンイチロウ		帯広畜産大学・原虫病研究センター・教授	博士（獣医学）	寄生虫学・分子寄生虫学	研究指導（寄生虫学・分子寄生虫学）	1
71 福本 晋也	フクモト シンヤ		帯広畜産大学・原虫病研究センター・准教授	博士（獣医学）	節足動物学	研究指導（節足動物学）	0.5
72 橋爪 真弘	ハシヅメ マサヒロ		東京大学大学院医学系研究科 国際保健学専攻国際社会医学・教授	博士（医学）	疫学	卓越大学院運営委員, 卓越合同学務委員, 講義（疫学・統計学）, 研究指導（疫学）	2
73 松本 健一	マツモト ケンイチ		東洋大学・経済学部・准教授	博士（総合政策）	環境経済学・環境政策・応用経済学	研究指導（環境経済学・環境政策・応用経済学）	0.5
74 山口 智美	ヤマグチ サトミ		活水大学看護学部・教授	保健学博士	高齢者看護学	研究指導（高齢者看護学）	0.5
75 狩野 繁之	カノ シゲユキ		国立国際医療研究センター（研究所・熱帯医学・マラリア研究部）・部長	医学博士	熱帯医学・マラリア学	研究指導（熱帯医学・マラリア学）	0.5
76 溝上 哲也	ミヅウエ テツヤ		国立国際医療研究センター・臨床研究センター・疫学・予防研究部・部長	博士（医学）	疫学	研究指導（疫学）	0.5
77 大曲 貴夫	オマガリ リオ		国立国際医療研究センター病院・国際感染症センター・副院長	医学博士	臨床感染症疫学	研究指導（臨床感染症疫学）	1

（【1814】機関名：長崎大学 プログラム名称：世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム）

[公表]

14. プログラム担当者一覧（続き）

氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	フォート(割合)
78 内橋 欣也	ウチハシ キンヤ		シスメックス株式会社・第一エンジニアリング本部・細胞技術グループ部長	工学博士	診断機器・診断薬商品開発	講義（社会実装モジュール）, 研究指導（社会実装）	1
79 鈴木 基	スズキ モトイ		国立感染症研究所・感染症疫学センター・センター長	博士(医学)	感染症疫学・熱帯医学	研究指導（感染症疫学・熱帯医学）	1
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							

（【1814】機関名：長崎大学 プログラム名称：世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム）

進捗状況の概要【2ページ以内】

進捗状況の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

① 特筆すべき成果のあった事項

本プログラムがもたらした最大の成果は、グローバルヘルス領域で世界最高峰の英国ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院 (LSHTM) との戦略的パートナーシップをもとに、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 (TMGH 研究科) を中核母体として推進してきた先進的な学位プログラム「国際連携グローバルヘルス専攻 (Joint PhD)」が完成に近づいたことである。それを可能にした背景として、LSHTM と TMGH 研究科の合同学務委員会 (Joint Academic Committee ; JAC 委員会) が、本学マネジメントの実施母体として実質的に機能したことが大きい。JAC 委員会の事務局は、LSHTM 敷地内に新たに設置された「長崎大学英国教育研究プログラムオフィス」に置き、常駐する長崎大学クロスアポイント教員が、プログラム・ディレクターとして LSHTM 側国際連携担当者と密接に連絡を取りながら、これまで定期的に計 13 回の JAC 委員会を開催した。JAC 委員会は、Joint PhD の広報・入試選抜から、個々の学生の教育研究進捗状況の把握、QE 実施 (後述) にかかる監督及びコロナ禍における特別支援等の学術マネジメントを担い、両大学の異なる教育文化によって生じる諸課題を集約・整理し、解決に向けて新たな規程を設ける等、日英に跨る Joint PhD プログラムの実現化に向けて機能した。さらに 2020 年度からは、JAC 委員会の冒頭へ学生代表を毎回参加させ意見交換を行い、諸課題の共有を図る等、本プログラム運営の効率性を高めた。円滑な運営による同プログラムの安定性やシンポジウム等の活動により、Joint PhD への国内外の注目度が飛躍的に向上したことで、2020 年度は LSHTM、オックスフォード大学、ジョンズ・ホプキンス大学等、世界トップレベルの大学の修士課程修了者を含む世界 26 カ国 7.6 倍の応募があり、地方大学でありながら真に卓越した学生の確保につながった。この影響は Joint PhD のみならず、TMGH 研究科グローバルヘルス専攻 (以下 Non-Joint PhD) や TMGH 研究科博士前期課程 (修士課程) へ入学を希望する学生の質的向上にもつながった。

二つ目の特記すべき成果は、本プログラムを通じて「グローバルヘルス」をキーワードとした全学的・全国的・国際的な連携を進化させ、他に比肩のない卓越した世界的「グローバルヘルス」教育研究拠点が構築されたことである。学内の運営母体である「グローバルヘルスプログラム運営委員会」は、2020 年度より学内全 7 研究科の研究科長が参画し、本プログラムは全学に波及している。また、LSHTM との国際共同研究課題案件は計 108 件に上り、参加教員は医歯薬学総合研究科、水産・環境科学総合研究科、多文化社会学研究科、経済学研究科へと広がった。さらに、本学の非医療科学系教員をグローバルヘルス分野の教育研究に繋げる新たな取組みとして「グローバルヘルス研究支援 Grant」を創設し、工学研究科や新設された情報データ科学部の教員が参加した萌芽的研究を含む 11 件の申請を採択した。学外では、グローバルヘルスの理念を共有できる国内機関との連携を進展させ、既に TMGH 研究科サテライトキャンパスを置く国立国際医療研究センター (NCGM) に加えて、2020 年には国立感染症研究所が連携大学院となった。また、東京大学、北海道大学、帯広畜産大学との連携協定を締結した他、学長がアクションプランで掲げるグローバルヘルスを基軸とした「プラネタリーヘルス」をキーワードに国立環境研究所と連携協定を締結した。LSHTM は、2015 年 Lancet Commissions でプラネタリーヘルスの意義を提唱した世界的オピニオンリーダーであり、LSHTM との戦略的パートナーシップを軸とする本プログラムの活動は、「グローバルヘルス」と「プラネタリーヘルス」をキーワードとした国内外の教育研究ネットワークの発展に寄与した。

三つ目の特記すべき成果は、コロナ禍の逆境においても本プログラムによって促進され、貫かれた TMGH 研究科の社会貢献である。本プログラムはグローバルヘルスに関する一般社会への情報発信として、TMGH 研究科東京 NCGM サテライトキャンパスを拠点に、「よくわかる SDGs 講座」を 2018～2019 年度に計 18 回開催した。また、2019 年 3 月にグローバルヘルスキックオフシンポジウム (長崎)、2019 年 6 月にグローバルヘルスフォーラム (東京) を開催し、一般企業、関係省庁、政府関係者、将来の学生候補を対象に情報発信を行ってきた。さらに、コロナ禍における社会への提言を行うため、本プログラムの HP 上に特別サイトを設け、各種メディアにて随時情報発信すると共に、2021 年 3 月 7～9 日に日本医学ジャーナリスト協会共催のもと、日英公開国際シンポジウム (福岡) を開催した (講演内容は現在も HP 上で配信している)。このシンポジウムは日英両国の政府アドバイザーであり著明な新型コロナウイルス感染症対策専門家 (12 名) を招聘し講演が行われた。これら計 3 回のシンポジウム等へは合計 50 名以上の講演者及び 17 社の企業出展があり、参加者は延べ 2100 人を超えた。以上の活動を通じ、一般社会へ対しても科学的情報を発信するアカデミアとしての認知度が向上した。さらに、本プログラム学生が、WHO のマニラアジア大西洋事務局やパプアニューギニア事務所、国境なき医師団等の国際機関、フィリピン国立感染症病院や長崎市、福岡県の地方行政の新型コロナウイルス感染症対策に派遣協力する等、国内外の社会へ支援活動を行った。

② 計画通り進んでいる事項

・博士前期課程にあたる 2 年目までの教育内容は、本プログラムに相応しいカリキュラムとなった。

2015年に開設したTMGH研究科の熱帯医学コース、国際健康開発コース、ヘルスイノベーションコースの3コースでは、54科目の講義・実習及び研究指導を多様な文化背景をもつ留学生とともに100%英語で履修できる環境を整備した。本プログラムではこれらの教育研究機能をさらに強化する目的で、卓越大学院レベルに則したアドバンスト科目として、「疫学統計学」、「熱帯医学」、「国際地域保健学」及び「政策マネジメント学」等の国際保健・国際協力に関する最先端の講義・実習を追加した。以上は、長崎大学の教員及びTMGH研究科に常駐するLSHTM教授2名の他、専門的知見を有した招聘講師90名(LSHTMとのクロスアポイント教員10名、前述の国内の国際レベルの連携教員、グローバルヘルスで卓越した海外の大学教員(オックスフォード、アントワープ、リバプール、ワシントン等)、国境なき医師団等NPO法人、WHO等研究機関)によって実施されている。また、全授業はオンデマンド配信のために収録し、社会人大学院生がオンラインで履修できる環境を構築した。

さらにアジアの疾病にフォーカスし、LSHTMとTMGH研究科が共同開発した熱帯医学専門医養成コース「熱帯医学・衛生ディプロマ」は米国熱帯医学・衛生学会から公認され、本学の履修証明プログラムとして社会人に提供されている。

・博士後期課程において、本プログラムが特に教育研究の質を保証する重要なプロセスとして重視してきたQE審査が順調に実施された。本プログラムでは、LSHTMと同等のQE審査を実施するために、国際的に卓越した専門家を外部審査員として積極的に招聘し、学生の研究計画書に関して、毎回約3時間かけて建設的な議論を行った。また、Non Joint PhDの学生についても同様のQE審査を2時間かけて実施した。これまでプログラム受講生としてJoint PhD専攻の1期生及び2期生の10名、医歯薬学総合研究科の5名、TMGH研究科2名の計17名が、前述の外部審査員(31名)の参加したQE審査を受け、全員合格している。これらの結果、2020年度の学生による国際学術誌論文掲載数は42件(うち単著1件、共著・第一著者12件)と目標を大きく上回る成果があった。うち、医歯薬学総合研究科博士課程の受講生1名は、早期修了基準を満たし厳格な論文審査及び口頭試問をクリアし、2021年3月に初の卓越大学院プログラム修了生となった。

③ 改善が必要な事項

・Non Joint PhDの学生については、モチベーションを保つため、3年目から4年目及び4年目から5年目の進級時に2段階のQE審査を実施し、結果に応じて教育研究支援経費及び研究指導経費の配分額に差をつけている正規学生と候補学生の入れ替えを可能としたが、この制度は互いに切磋琢磨し研究の質を高めようと競争的意識が働く反面、安定的な経済支援を望む声がある。Joint PhDとNon Joint PhDの学位プログラムのレベル格差のみならず学生支援の質的・量的格差を減らす工夫が必要である。

・学長のリードによって運営費交付金より持続的な重点配分があったが、国際レベルの教員の雇用や学生の教育研究支援経費及び研究指導チームへの研究指導経費を、補助期間終了後も安定かつ継続的に供給する取組みが必要である。2015年に創設したグローバルヘルス基金(現在は大学全体の基金である「西遊基金」として運用)等を本プログラム継続の資金源とする予定であり、これまで5000万円を超える寄付があるが、まだ十分ではない。今後は社員のPhD取得を希望するグローバル企業やシンクタンク企業に対し企業向け入試枠を設ける等、企業との連携の拡大、ジャーナリストとのコラボレーション、社会にとって有益なシンポジウムの開催等、社会への情報発信・社会貢献を続け、本プログラムの認知度を上げることで寄付金の増額を図りたい。

また、本学とLSHTMはベトナムにおける肺炎球菌ワクチンにかかる共同研究でビルゲイツ財団から15億円規模の競争的資金獲得に成功した前例があり、今後もLSHTMとのパートナーシップの優越性を活用して海外の巨額な競争的資金獲得を狙ってゆく。

プログラムとしての今後の見通し

・Joint PhDの学生が参画する国際連携共同プロジェクトの中には、連携大学をはじめ、国内外の民間企業や国際機関が多く参画しており、グローバルヘルス関連企業・組織における本プログラムへの注目度は高い。今後も、入学選抜で厳選され、評価の高い卓越したグローバルヘルス教育を受け本プログラムの課程を修了した学生に対する社会的ニーズは高い。

・LSHTMとの戦略的パートナーシップについては、2021年に本プログラム外の中立的なLSHTM教員2名を審査員とする中間評価が実施され、本学学長・プログラム責任者・コーディネーター・学生がヒアリングを受けた。本パートナーシップと本プログラムへの評価は高く、今後の見通しは明るい。その詳細な結果を受け、今後のプログラムの向上に役立てる予定である。

・本プログラムの卓越性を全学へ波及させ強固なものにするべく、本学の第4期中期計画・中期目標では、グローバルヘルスを基軸としたプラネタリーヘルスの推進を掲げ、地球規模の課題に学問領域を超えて全学的に取り組むプラネタリーヘルス学環(仮)を2022年10月に開設予定である。本学では世界的な喫緊の課題となる博士レベルの高度実務専門家(科学的エビデンスを政策に紐付ける人材)の育成を目的とし、熱帯感染症やグローバルヘルス分野における地球規模の課題を俯瞰し、科学的エビデンスを政策に紐付け、政策立案、政策決定、政策実行に貢献できる実務家リーダーを養成する博士レベルの高度実務専門家育成課程(Doctor of Public Health, DrPH)を創設し、DrPHの学位を授与する方向で2022年に学生受入れを開始する予定である。